

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだい



ニュース

第 2 4 号
(2 0 0 3 年 5 月 1 5 日)

5 0 回大会報告号

発行所：〒565-0871 吹田市山田丘 1 - 2
大阪大学大学院人間科学研究科渥美研究室
日本グループ・ダイナミックス学会
電話 & Fax: 0 6 - 6 8 7 9 - 8 0 6 6
発行人：渥美 公秀 編集担当：廣岡 秀一

新会長ごあいさつ

会 長 渥美 公秀

社会のニーズに呼応した夢のある個性的な学会へ

この度の選挙結果に基づき、堀毛前会長から引き継ぎを受けました渥美でございます。今年度より2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。今年度からは、堀毛先生の期に達成していただいた様々な成果を基盤に、「社会のニーズに呼応した夢のある個性的な学会」へと変貌していきたいと思います。今期がそのチャンスだと思います。

堀毛先生が会長に就任された当時の学会は、実にたくさんの問題を抱えておりました。しかし、堀毛先生の期にその多くが解決、改善されました。いくつかの項目を列挙しますと次のようになります：

- ・逼迫していた財政の立て直しができた上に、学生会費の値下げまで実施できるようになりました。
- ・編集体制は拡充し、編集のノウハウが凝縮された方針も明文化されました。
- ・日増しにアクセス数が増えております。HPも充実しましたし、NLに加えてflashというシステムによる即時の広報も評判です。
- ・大きな懸案事項とされたAASPとの関係およびAJSP契約の更新も関係が発展するばかりではなく、グループ・ダイナミックス学会にとっては願ってもない有利な条件で契約を更新することができました。
- ・研究委員会を設置して共催講座を実施したり、大会にプログラムを新設したり、活動の充実が見られました。
- ・編集事務を含む事務作業を一本化するために、学会事務センターからの移行を準備しました。

こうして、ほとんどの懸案事項が解決・達成されたこの時期に体制が新しくなるわけですから、新体制としましては、積み残された課題を着実にこなすだけでなく、さらに、学会として、夢のある将来展望を打ち出し、大胆に実施していきたいと思います。「社会のニーズに呼応した夢のある個性的な学会」への変貌です。

具体的に姿を描いてみたいと思います。

「社会のニーズに呼応した」夢のある個性的な学会へ

まずは、雑誌の刷新から始めたいと思います。具体的には、雑誌名の変更です。これから、会員の研究成果をより広く社会に開き、社会の様々な現場からのニーズに応え、フィードバックを得ていくためには、これまで私たちが当然と思ってきた事柄（例えば、雑誌名です）にも変化をもたらす必要があります。

様々な現場で、グループ・ダイナミックスが求められていることを肌で感じないではい

られません。最近は特にそうです。実際、私などの耳にも、グループ・ダイナミックスを求める声が、様々な現場 - 学校、看護、地域コミュニティ、行政実務、災害救援、福祉、日本語教育など - から届きます。

日本グループ・ダイナミックス学会は、こういったニーズに responding しているのでしょうか？学会レベルで考えれば、必ずしもそうではないと思います。例えば、看護分野の方々の実践や研究は、まさにグループ・ダイナミックスだと思います。しかし、その研究や実践の成果を発表する場を問われた時、「実験社会心理学的研究」と応えますと、お互い戸惑いが隠せません。

ただし、何も実験的研究を排除するなどと申し上げたいわけではありません。そもそも実験という1つの「方法」を排除することに意味を感じません。従いまして、この提案の趣旨は、何か特定の研究やましてや方法を排斥することにはありません。ただ、現状では、メタ理論レベルからして異なる論文が混在している現状に、皆さんがそれぞれにどこか居心地の悪さを感じておられるのではないのでしょうか。そこで、フィールド研究と実験研究といった具合にセクションを分離することも考えています。そして、それらの総称として、学会名を冠した誌名に変更していこうとご提案申し上げているわけです。もちろん、名前が変わってもセクションに分かれても、これまでこの雑誌が誇りとしてきました質の高い研究を掲載していくというスタンスには変更ありません。

また、こうした改革によって、社会から集まる注目に応じて、様々な制度（例えば、会員制度）も見直したいと思います。

社会のニーズに呼応した「夢のある」個性的な学会へ

様々な夢を描いて頂ける学会にしたいと思います。

例えば、(仮)総会でご承認頂きましたように、今後は、中西印刷さんのご協力を得て、雑誌のオンライン化を図りたいと思います。それに伴って、編集システムや事務システムもオンライン化していくつもりです。こうすることによって、様々なプロセスが透明になり、多くの会員の皆様に参画して頂けるようになります。そこに夢を描いて頂けるようになります。

また、アジア社会心理学会との関係も、さらに深めていきたいと思います。昨今の世界情勢を見る時、アジア地域の安定と発展は何より大切だと認識しています。これまで友情を育むという姿勢から進めてきた交流も、第2ステージに入り、いよいよ共同研究や研究者の交流をどんどん進めるべき時期にきていると思います。アジアの一員としてもっと発言していいのではないのでしょうか？

社会のニーズに呼応した夢のある「個性的な」学会へ

関係諸学会との関係をきちんと運営していきたいと思います。

もう社会心理学会との合併を取りざたされることはないと思いますが、グループ・ダイナミックス学会は、社会心理学会とは似て非なるものです。なぜグループ・ダイナミックスという看板を掲げて活動しているのでしょうか。そこにグループ・ダイナミックスの個性を示すことができなければなりません。私は、最近の経緯だけではなく、学会設立当初の状況、さらには、グループ・ダイナミックスという学問の創設時の理念まで考えに入れておきたいと思います。その上で、グループ・ダイナミックス学会には、より実践に根ざした活動を展開していくことに個性を見ます。「よい理論ほど実践的なものはない」とは、グループ・ダイナミックスの言葉です。この言葉をまともに読み返す時だと思います。

このような思いは、2年半の事務局としての活動の中で感じて参ったものです。中でも、昨年、恩師であります三隅先生がご逝去されましたことは、私にとって悲しいできごとでしたが、あれ以来、「おもしろいことをしっかりやれ」という先生のお言葉が耳から離れません。戦後復興間もない頃、先生はどのような思いでこの学会を作ってこられたのか。先生の周囲で、諸先輩たちがどのようなご苦勞を積み重ねてこられたのか、そんなことを思う時、このグループ・ダイナミックス学会が半世紀にもわたって培ってきた“思い”の集積を重く深く受け止めております。今こそ、社会のニーズに応えられる夢のある個性的な学会へと変貌していきたいと思います。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

前会長ごあいさつ

前会長

堀毛 一也

北国・盛岡もようやく春めいてまいりました。名勝の石割桜の蕾もほころび始めたようです。キャンパスも新学年を迎えおおいに活気づいております。

おかげさまで50回記念大会も盛会のうちに無事終了することができました。あらためて厚く御礼申し上げます。会員の皆様には、大会の折のご支援も含め、2年半にわたる在任中、本当にお世話になりました。なんとか無事に任期を全うできましたのも、皆様方のご支援の賜物と心より御礼申し上げる次第です。

理事の先生方、査読にご協力いただいた先生方、また監査の先生方をはじめ、折りにふれ貴重なご助言をいただいた先生方、本当にありがとうございました。なによりも常任理事の先生方には、本当にお世話になりました。すでに学会の折りにもご紹介申し上げましたとおり、今期の活動成果の大半は、常任理事の先生方の多大なご貢献によるものです。あらためて心より御礼申し上げます。とりわけ渥美先生には、甚だ煩瑣な事務局の雑務をお引き受けいただき本当に感謝致しております。渥美研究室のスタッフの皆様にもあらためて厚く御礼申し上げます。編集作業を手伝ってくれた岩大の院生諸君にも紙面を借りて心より御礼申し上げます。

前任者の大坊先生のご尽力により、学会の方向性について、きちんとした路線をお示しいただいておりましたので、それを引き継ぐ形で、懸案のいくつかには対応できたように思います。一方で、学会の将来に向けて、研究上のスタンスとも密接に関連する新たな課題が生じてきたように思います。アプローチが多様化してゆくことは、社会心理学あるいはグループ・ダイナミックスという学問の性質上やむを得ないことかと思いますが、大会の折りのシンポジウムでも論じられたように、多様な観点に立つことを認め合い、相互のアプローチの有効性について理解を深めることが、50年後、100年後の学会の発展につながると思います。

渥美新会長のもと、学会がさらなる発展をとげることを祈念いたしております。会員の皆様、本当にありがとうございました。重ねて厚く御礼申し上げます。

第50回記念大会 京都で開催される

- 詳細は次号で -

これまで秋期に開催されていましてグルダイ学会大会が、今大会より春期に開催されることになりました。記念すべき50回大会は、この開催時期が変更された後の最初の大会で、これまでにない新しい試みが随所にみられる大会でした。

第50回大会は、堀毛一也大会委員長（渥美公秀準備委員長）のもと、本年3月22日、23日にキャンパスプラザ京都で開催されました。春に大会を開くのは初めてですので、果たして多くの会員の皆様にご参加頂けるかと心配しておりましたが、ロング、ショート、院生セッション、ポスター、English、シンポジウム、ワークショップあわせて約150件の発表がありました。大会参加者数は約300、懇親会にも約180名がご参加下さいました。春の行楽シーズンで京都にホテルが予約できず、奈良、大阪、神戸のホテルを利用された方も多かったようです。また、ホテルの都合で参加をあきらめざるを得なかった会員の方もかなりおられたという話も耳にしています。「春の京都、恐るべし」です。

2つのシンポジウム、そして4つのワークショップ、そしてそれぞれの発表会場、いずれも盛会だったようです。今大会の「印象記」（次号）を山口裕幸氏、谷口淳一にお願いしてありますので、大会に関する感想などはそちらの方をお楽しみにお待ちください。

初めての試みであった「英語論文ワークショップ」を含めた4つのワークショップに関しても、次号で「特集」を組んで詳しく報告させていただきます。具体的には、それぞれのワークショップを企画および話題提供いただいた方からのコメント、さらには、参加者の方からのコメントなどを掲載する予定です。すでに多くの方から玉稿を賜っていますが、ワークショップにご参加いただいた先生からの自由なご投稿もお待ちしております。ニュースレター編集担当（shuhiro@edu.mie-u.ac.jp）までご連絡いただければと思います。

また大会総会時には、名誉会員の推戴と2つの学会賞が発表されました。

日本グループ・ダイナミックス学会諸規定（名誉会員の推戴条件）における「学会活動に著しい貢献のあった者」に該当する会員として、長期にわたり監査の任に当たってくだ

さった篠原しのぶ先生が名誉会員に推戴されました。

優秀論文賞は、第41巻1号に掲載された「北村英哉ムード状態が情報処理方略に及ぼす効果—ムードの誤帰属と有名さの誤帰属の2課題を用いた自動的処理と統制的処理の検討—」が受賞されました。三隅賞は、David Matsumoto & Centia Kupperbusch Idiocentric and allocentric differences in emotional expression, experience, and the coherence between expression and experience. *Asian Journal of Social Psychology*, 4, 2, 113-132. が受賞されました。

先生方、おめでとうございます。

名誉会員の推戴を受けて

名誉会員 篠原しのぶ

この度は、本学会第50回大会という大変意義深い年に、特にこれといった働きもしていないにもかかわらず、名誉会員にいただきましたことを、大変光栄に存じ、心より御礼申し上げます。

振り返りますと、九州大学の専門課程に進学いたしましたして、三隅二不二先生のご指導を仰ぐことができるようになって以来、只々先生のおそばで先輩諸氏のご指導を受けながら、PM式リーダーシップの研究に取り組んでまいりました。その間、リーダーシップを中心とした人間関係の重要性を痛感しつつづけてまいりましたことが、福岡女学院大学に新たに、人間関係学部を設立する原動力になったことと、今更ながら感謝いたしております。

ところで、今回の総会で、研究内容その他の現状を考慮して、近い将来、学会誌「実験社会心理学研究」の名称変更を考えておられるとお聞きしました。私はその更に前身である「教育・社会心理学研究」の創刊号から、いろいろな形でかかわらせて頂いておりました。印刷技術も、印刷機も、そしておそらくわれわれの編集能力も乏しかったときに、九州大学の研究室に於いて、後に集団力学研究所副所長になられた三負恵美子さん方と共に苦労しながら発刊していたことを懐かしく思い出します。時代の流れに伴って研究の目的や方法論等も変化し発展していつている結果だとつくづく感じております。

あれは昭和何年だったのでしょうか、福岡市が大変な水飢饉に見舞われた年のことです。九州大学で大会が開催される予定でした。しかし、三隅先生も、狩野先生も、そして当時西南学院大学におられた白樫先生も外国に留学や出張をなさっていたために、理事でもない一介の監事ではない私が所属していた単科大学である、中村学園大学で大会をお引き受けすることになりました。前年度までの発表者、参加者を大きく越える方々をお迎えすることができて大喜びしたのですが、1日に2～3時間しか水道の水が出ないという湯水状態です。生命の保存にも、精神の安定にも不可欠である「水」をどのようにして皆様にご不便をかけないように提供することができるかということに心を砕いたことは、今思い出すだけでも冷や汗物です。あのときにご参加してくださった諸先生方に大変ご迷惑をおかけしましたことを、ここであらためてお詫び申し上げます。

今大会では、「第100回大会のグループ・ダイナミックスに向けて」という大変興味深いシンポジウムを拝聴させていただきました。グループ・ダイナミックス研究の過去・現在を通して50年後のあり方に言及されていましたが、遠い将来を見通すことは若く有望な研究者にお任せすることにして、古稀を迎えた私は、とにかく今日を精一杯有意義に生きつつ、私にできる現在の研究を一步一步進めてまいりたいと思います。今後とも今まで通りご指導くださいますよう心からお願い申し上げます。最後になりましたが、日本グループ・ダイナミックス学会のますますのご発展と、先生方お一人お一人のご活躍を衷心よりお祈り申し上げますと共に、私のようなものに身に余る榮譽をお与えいただきましたことを重ねて深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

「優秀論文賞」受賞の御礼として

東洋大学 北村 英哉

このたびは、拙論に「優秀論文賞」を賜りましてたいへん光栄です。ありがとうございました。「賞といえど」というような話で恐縮ですが、賞によって行動が形成されるという話があります。我が家にはハムスターがおりまして、妻がよくエサやりをします。する

と、これを学習して妻の姿を感じると、エサ箱の方に走って妻の方を向いてねだるようにします。妻は、「わたしを見るとエサだと思って・・・」と言いながら野菜かなんかをやりまします。これを端から見ておきますと、ハムスターが強化されたのか、妻が強化されているのかわからない気がします。ハムスターの戦略としては、妻 - エサが大して強くない連合だとしても敢えてそこを連合としてしまっ、「エサだエサだ」と騒げば、妻はハムスターと出くわしたとき（目が合ったとき？）には、エサをやらざるを得ないようにし向けられ、自分を見ればエサをねだる可愛いペットという認知、あるいは、自分はハムスターからなつかれていてエサをねだられる存在であるという自己認知を自己確証するという賞（行動主義ではこのような認知的変数は取り入れないでしょうが）を得ることによって、この行動パターンをとり続けることが強化され続けているわけです。

心理学研究と学生との関係はどうでしょうか？ ややこしい言い回しをしなくても、誰でも喜ばれる授業を行いたくなる傾向はあるでしょう。自分が打ち込んでいる分野でもそれを講じたところで、学生の反応は冷淡・・・。社会心理学者が臨床志望の学生・院生の多いところで授業を行うと、時にはこういうことがあるのではないのでしょうか。学生の反応の方が、授業で取り上げる研究分野の強化の担い手になっているのです。意識して、あるいは、知らず知らずのうちに、学生が興味を持つだろうと思うような身近でわかりやすいこと、あるいは、臨床の学生が好むような濃密で悩みに満ちた人間関係が展開されている事象を取り上げる。これを大局で見ると、臨床勢力の強くなった研究機関という場において、臨床志向が社会心理学研究の強化の担い手になり得るという構造を暗示しています。

誤解頂きたくないのは、私は何も臨床志向を排除しようとか、いけないと主張しているのではなく、今やさまざまな問題について、協同関係が必要で、社会心理と臨床心理のインターフェイスも進展しつつあります。学問研究をちょっと社会学風に捉えて見た場合、どのような研究テーマが選ばれるかということには、その時代の研究が行われている現場における人的資源、知的資源、学問分野への研究者の人口の配置や予算の配分などの社会的要因によって左右される部分があるでしょう。こういうことに時々ふと自覚的になるのもいいかなと思いますし、自分の行動を無自覚的に規定している要因を探してみるのも楽しいかなと思います。幸か不幸か、私は、全国でも珍しい「社会心理学科」に所属する教員であって、他分野からの圧力をほとんど受けませんし、学生も「社会心理学」を学ぶのが当たり前だと思っています。それゆえ、他分野とのインターフェイスや応用研究が私の中で大して展開しないことは許される環境というか、甘やかされているところがあって、わがままにも基礎研究のし放題というところがあります。来年度から大学院もできますが、そうすると、もしかしたら「つまらない」（と思うかもしれない）基礎研究は強化されることがなく、私の志向にも影響が与えられてくるかもしれません。日本では心理系の大学院が近年たくさん増えました。量的拡大の引き替えで失われつつある気風もあるでしょう。研究者も免れることなく「今」を生きて、今の空気を吸っています。私としては、今回、わかりにくい（文章も下手で、わかりにくい言い回しや長いパラグラフなど、論文審査の先生のご指摘のお陰をもちまして改善された部分もありながら、それでもなお不徳の致すところでちょっと掃除してもとりにくいシミのようにところどころ残ってしまった悪文を恥ずかしく思っておりますが←このように無闇に長いよくない文）、社会心理学にしては基礎的すぎるかもしれない研究論文に対してまして受賞が得られましたのは、選考委員の皆様の度量の深さと寛大な励ましの賜物とたいへんありがたく受け取らせて頂いております。

また、長いパラグラフを書いてしまいましたが、これから実験操作の反省をしなくてもすむようなもっと美しい実験を行うことを目指して精進して参るとともに、人口的、あるいは、現代の日本の教育構造として不可避的な大学院の学力崩壊の現象をいくらかでもくい止めて、日本の心理学の研究水準の足を引っ張ったりしないように強い意志（希望にすぎないかもしれない願い？）をもって何とか研究を続けて参りたいと思っております。ありがとうございました。（そういう落ちか！ 書き出しからは意外な展開だったね。←自己ツツコミ）

三隅賞決定

三隅賞選考委員長

堀毛 一也

三隅賞選考経緯

2002年度の三隅賞は、規定に従い、AASPよりKwok Leung先生、およびSik Hung Ng先生のお二方、GD学会より大淵憲一先生、山岸俊男先生、それに堀毛を審査員とし

て選考が行われました。AJSPの第4巻に掲載された論文の中から、第一次選考では7編の論文がノミネートされました。第二次評定の結果、2編を候補とし、それぞれについて議論を交わした結果、最終的に以下の論文を候補として推薦することが決定され、先の総会で報告・承認されました。

David Matsumoto & Centia Kupperbusch Idiocentric and allocentric differences in emotional expression, experience, and the coherence between expression and experience. *Asian Journal of Social Psychology*, 4, 2, 113-132.

2002年度第4回 新旧合同常任理事会・常任編集委員会議事録

日時：2003年3月21日 13:00-16:00

場所：キャンパスプラザ京都

出席者：堀毛・渥美・大淵・廣岡・松井・村田・山口勸・大橋・山口裕幸・矢守・吉田

常任理事会

【報告事項】

総務

1. 三隅賞の選考報告

堀毛会長より、2002年度の三隅賞は、AJSP第4巻を対象として5段階評価の投票により、Matsumoto DとKupperbusch Cの共著“Idiocentric and allocentric differences in emotional expression, experience, and the coherence between expression and experience”(AJSP, August 2001, vol. 4, no. 2, pp.113-131所収)に授与されることになったと報告があった。今夏のマニラ大会で授与される。

また、山口常任理事より、2003年度の三隅賞については、早急に選考委員会を形成して選考に入ることが求められた。その結果、渥美新会長が、理事会後に交渉し、当学会からは、渥美新会長、大淵常任理事、山口常任理事の3名、アジア社会心理学会からは、K.Leung氏含む2名が選考することになった。

2. 優秀論文賞の選考経過

堀毛会長より、14:00からの選考委員会が予定通り開催されることが報告された。

3. 日本心理学諸学会連合における基礎資格問題について

堀毛会長より、新体制になっても引き続き議論の対象としていくことが望ましいとの報告があった。なお、日本心理学諸学会連合には、新体制になることを届け出ることとした。

4. 名誉会員推戴

堀毛会長より、本年度は、日本グループ・ダイナミックス学会諸規定（名誉会員の推戴条件）における「学会活動に著しい貢献のあった者」に該当する会員として、長期にわたり監査の任に当たってくださった篠原しのぶ先生をご推戴申し上げることとしたとの報告があった。

広報

1. ぐるだいニュースの発行・ホームページの運用

廣岡常任理事より、ニュースレターは、大会直前号として“号外”を発行したとの報告があった。ホームページには、大会開催の情報についても最新情報を掲載している旨、報告があった。

将来計画

1. 活動報告と申し送り事項

松井常任理事より、資料に基づいて「活動報告と申し送り事項」として以下の4点が報告された。

(1) 学会費の値下げについては、賛助会員の獲得や広告費の増収によって、さらなる値下げを行うべきであること。

(2)研究成果の社会還元として実施してきた共催講座については、採算分岐点の40人を確保する運営を心がけること。日本マーケティングリサーチ協会との折衝は、来年度に限り、松井常任理事が引き続き支援すること。さらに、(財)集団力学研究所などとの共催講座も考えていいのではないかと。

(3)会員の研究活動の活性化の1つとして実施してきた学会ワークショップは、本大会の参加実績を検討し、可能ならば継続すべきであること。

(4)研究委員会は、規定に基づいて、正式な活動を継続すること。

2. 会費値下げ

堀毛会長より、学生会員のみ現行¥8,000の年会費を¥6,000に値下げすることが報告された。その際、学生であることの証明の仕方としては、在学証明書の提出を義務づけることとしたいとの方針が示された。

渉外

1. AJSPについて

山口常任理事より、AJSP第6巻以降について、Blackwell社との間で、当学会に有利な契約更新を行えたことが報告された。具体的には、当学会はこれまで配布数を上回る部数の購入を求められていたが、今後は最低600部の購入でよいこと、680部まで購入しても総額に変化はないこと、さらに部数が増えた場合でも、本来の1巻34US\$に変化はないことを明示した契約更新が行われた。

山口常任理事より、AJSPの棄却率が70%を超えていることが報告された。現在、レビューを通過しなかった論文の中から選ばれたものを本として出版することが企画されているが、オンライン化も含めて、学会としての対応を検討すべきであることが指摘された。

山口常任理事より、メルボルン大会の発表をもとに構成されるProgress in Asian Social Psychologyの目次が配布され、当学会員の投稿が増えていることが示された。

会計・事務

1. 2001年度決算報告

渥美常任理事により、別紙<巻末資料4>の通り、決算報告が行われた。

2. 2002年度決算確定直前の報告

渥美常任理事より、3月下旬に、年度末の決算を正確に報告することは不可能であること、2001年度の決算が監査される際に、2002年度の1月末日までの予算執行状況についても監査を受けたが問題はなかったこと、さらに、5月頃に確定する予定の2002年度決算については、新監査に監査を受けて、次の総会で承認をえるという手続きをとること、が報告された。

3. 会員異動

渥美常任理事より、2003年1月末日現在の会員数等が報告された。

会員数	870名
一般	742名
学生	109名
賛助	4名
名誉	15名

入退会数(30名増)

入会者(55名)

一般	11名
学生	43名
賛助	1名

退会者(25名)

一般	22名
学生	3名

その他

1. 監査報告の経緯

堀毛会長、渥美常任理事より、前大会(熊本大会)以降、2002年度途中までの会計監査と業務監査を受けたことが報告された。会計監査は、上記「会計・事務 2」に示したとおりであった。業務監査については、前大会時に明示された項目(例:若手会員向けのワークショップの実施など)について、その実施ができているとのポジティブな評価を得たが、会員各層に対してきめ細かなサービスが必要であることが指摘された。

との報告があった。

【審議事項】

1. 2002年度決算案に関する暫定的決定について
渥美常任理事より、5月頃に新監査に監査をしてもらうことによって決算とするとの原案が示され、了承された。
2. 2003年度予算案
堀毛会長より、予算案の趣旨が示され、渥美常任理事から主たる収入・支出項目について説明があった。繰越金の取り扱い、表記の統一などについて意見が交わされ、修正について合意した。そこで、引き続き行われる理事会には口頭で、翌日の総会には修正した印刷物を提示して、審議にかけることとした。
3. 細則改定について（堀毛）
別紙＜資料3＞の通り、細則を改訂することについて議論し、これを承認した。
4. 第51回大会開催について
南山大学（津村俊充大会委員長）にて開催、時期は2004年5月頃となることについて検討して了承した。

将来計画

1. 中長期計画について
堀毛会長より、引き継ぎ項目の確認があり、必要に応じて各常任理事が説明を加えて了承した。項目としては、事務作業等（事務委託、サーバー、オンラインJ）を中西印刷に委託していく具体的日程、倫理規定検討委員会については設置するかどうか、学会誌名変更、会員制度などそれぞれを検討することである。

その他

1. 理事会議案の確認
2. 総会議案の確認

常任編集委員会

【報告事項】

編集方針・体制の改善について

堀毛編集委員長より、“「実験社会心理学研究」編集方針・編集体制”の最終稿が提示され、字句修正等を行った。

【審議事項】

投稿・審査状況について

堀毛編集委員長、大淵副編集委員長より、学会誌への投稿・審査について報告があり、第42巻2号については、最終段階にあって、年度明け4～5月に発行できる旨報告があった。第43巻1号から新編集委員会に引き継ぐこととなり、その日づけを5月と定めた。

新旧引き継ぎ

渥美常任理事より、新体制の役割分担、MLの開設、次回会合の日程等について報告があった。

2002年度新旧合同理事会議事録

日時：2003年3月21日 16:00-18:30

場所：キャンパスプラザ京都

出席者：

安藤 清志 渥美 公秀 福島 治 廣岡 秀一 唐沢 穰

松井 豊	南 博文	村田 光二	永田 素彦	中村 完
沼崎 誠	大橋 英寿	大淵 憲一	斎藤 和志	坂元 章
浦 光博	山岸 俊男	山口 勸	矢守 克也	ハッ塚一郎
結城 雅樹			(敬称略・アルファベット順)	

【新理事】

相川 充	安藤 清志	大坊 郁夫	遠藤 由美	林 直保子
飛田 操	廣岡 秀一	唐沢 穰	嘉志摩 佳久	國吉 和子
南 博文	大橋 英寿	大淵 憲一	坂田 桐子	鹿内 啓子
高井 次郎	浦 光博	渡邊 としえ	山口 裕幸	矢守 克也
吉田 道雄			(敬称略・アルファベット順)	

理事会

総務

1. 選挙結果
堀毛会長および大淵常任理事より、資料に基づいて、選挙結果について報告があった
<資料1>。
2. 三隅賞選考報告
堀毛会長より、2002年度の三隅賞は、AJSP第4巻を対象として5段階評価の投票により、Matsumoto DとKupperbusch Cの共著“Idiocentric and allocentric differences in emotional expression, experience, and the coherence between expression and experience”(AJSP, August 2001, vol. 4, no. 2, pp.113-131所収)に授与されることになったと報告があった。今夏のマニラ大会で授与される。
3. 優秀論文賞の選考経過
安藤選考委員長より、選考経過の報告があった。優秀論文賞は第41巻1号に掲載された「北村英哉ムード状態が情報処理方略に及ぼす効果—ムードの誤帰属と有名さの誤帰属の2課題を用いた自動的処理と統制的処理の検討—」に授与されることになった。
なお、次点であった論文についても議論の様子が報告された。
4. 日本心理学諸学会連合における基礎資格問題について
堀毛会長より、新体制になっても引き続き議論の対象としていくことが望ましいとの報告があった。なお、日本心理学諸学会連合には、新体制になることを届け出ることとした。

広報

1. ぐるだいニュースの発行・ホームページの運用
廣岡常任理事より、ニュースレターは、大会直前号として“号外”を発行したとの報告があった。ホームページには、大会開催の情報についても最新情報を掲載している旨、報告があった。

将来計画

1. 活動報告と申し送り事項
松井常任理事より、「活動報告と申し送り事項」として以下の4点が報告された。
(ア)学会費の値下げについては、賛助会員の獲得や広告費の増収によって、さらなる値下げを行うべきであること。
(イ)研究成果の社会還元として実施してきた共催講座については、採算分岐点の40人を確保する運営を心がけること。日本マーケティングリサーチ協会との折衝は、来年度に限り、松井常任理事が引き続き支援するとのこと。さらに、(財)集団力学研究所などとの共催講座も考えていいのではないかと。
(ウ)会員の研究活動の活性化の1つとして実施してきた学会ワークショップは、本大会の参加実績を検討し、可能ならば継続すべきであること。
(エ)研究委員会は、規定に基づいて、正式な活動を継続すること。
2. 会費値下げ
堀毛会長より、学生会員のみ現行¥8,000の年会費を¥6,000に値下げすることが報告された。その際、学生であることの証明の仕方としては、在学証明書の提出を義務づけ

ることとしたいとの方針が示された。

渉外

1. AJSPについて

山口常任理事より、AJSP第6巻以降について、Blackwell社との間で、当学会に有利な契約更新を行えたことが報告された。具体的には、当学会はこれまで配布数を上回る部数の購入を求められていたが、今後は最低600部の購入でよいこと、680部まで購入しても総額に変化はないこと、さらに部数が増えた場合でも、本来の1巻34US\$に変化はないことを明示した契約更新が行われた。

山口常任理事より、AJSPの棄却率が70%を超えていることが報告された。現在、レビューを通過しなかった論文の中から選ばれたものを本として出版することが企画されているが、オンライン化も含めて、学会としての対応を検討すべきであることが指摘された。

山口常任理事より、メルボルン大会の発表をもとに構成されるProgress in Asian Social Psychologyの目次が配布され、当学会員の投稿が増えていることが示された。

2. 2003年度三隅賞選考体制について

山口常任理事より、2003年度の三隅賞については、早急に選考委員会を形成して選考に入ることが求められた。その結果、渥美新会長が、理事会後に交渉し、当学会からは、渥美新会長、大淵常任理事、山口常任理事の3名、アジア社会心理学会からは、K.Leung氏含む2名が選考することになった。

会計・事務

1. 2001年度決算報告

渥美常任理事により、別紙の通り、決算報告が行われた<資料4>。

2. 2002年度決算確定直前の報告

渥美常任理事より、3月下旬に、年度末の決算を正確に報告することは不可能であること、2001年度の決算が監査される際に、2002年度の1月末日までの予算執行状況についても監査を受けたが問題はなかったこと、さらに、5月頃に確定する予定の2002年度決算については、新監査に監査を受けて、次の総会で承認をえるという手続きをとること、が報告された。

3. 会員異動

渥美常任理事より、2003年1月末日現在の会員数等が報告された（常任理事会議事録に同じ）。

その他

1. 監査報告の経緯

堀毛会長、渥美常任理事より、前大会（熊本大会）以降、2002年度途中までの会計監査と業務監査を受けたことが報告された。会計監査は、上記「会計・事務 2.」に示したとおりであった。業務監査については、前大会時に明示された項目（例：若手会員向けのワークショップの実施など）について、その実施ができているとのポジティブな評価を得たが、会員各層に対してきめ細かなサービスが必要であることが指摘されたとの報告があった。

2. 引き継ぎ項目の確認

堀毛会長より、引き継ぎ項目の確認があり、必要に応じて各常任理事が説明を加えて了承した。項目としては、事務作業等（事務委託、サーバー、オンライン）を中西印刷に委託していく具体的日程、倫理規定検討委員会については設置するかどうか、学会誌名変更、会員制度などそれぞれを検討することである。

3. 第51回大会開催について

南山大学（津村俊充大会委員長）にて開催、時期は2004年5月頃となることについて検討して承した。

【審議事項】

1. 2002年度決算案に関する暫定的決定について

渥美常任理事より、5月頃に新監査に監査をしてもらうことによって決算とするとの原案が示され、了承された。

2. 2003年度予算案

堀毛会長より、予算案の趣旨が示され、渥美常任理事から主たる収入・支出項目について説明があった。繰越金の取り扱い、表記の統一などについて意見が交わされ、修正について合意した。翌日の総会には修正した印刷物を提示して、審議にかけることとした。

3. 細則改定について（堀毛）

別紙の通り、細則を改訂することについて議論し、これを承認した<資料3>。

その他

総会議案の確認：資料をもとに議案を確認した。

編集委員会

【報告事項】

編集方針・体制の改善について

堀毛編集委員長より、“「実験社会心理学研究」編集方針・編集体制”の最終稿が提示され、字句修正等を行った。

【審議事項】

投稿・審査状況について

堀毛編集委員長、大淵副編集委員長より、学会誌への投稿・審査について報告があり、第42巻2号については、最終段階にあって、年度明け4～5月に発行できる旨報告があった。第43巻1号から新編集委員会に引き継ぐこととなり、その日づけを5月と定めた。

新旧引き継ぎ

渥美常任理事より、新体制の役割分担、MLの開設、次回会合の日程等について報告があった。

第50回大会 総会議事録

第50回大会大会委員長（堀毛一也先生）ご挨拶

【報告事項】

総務

1. 選挙結果

大江選挙管理委員会より、資料に基づき、選挙結果が報告された<資料1>。

2. 日本心理学諸学会連合における基礎資格問題について

堀毛会長より、新体制になっても引き続き議論の対象としていくことが望ましいとの報告があった。なお、日本心理学諸学会連合には、新体制になることを届け出ることとした。

3. 日本学術会議行動科学研究連絡委員会との共催シンポジウム

堀毛会長より、本大会において、同委員会との共催シンポジウムが開催されることが通知された。

4. 会員異動

渥美常任理事より、2003年1月末日現在の会員数等が報告された（常任理事会議事録に同じ）。

5. 名誉会員推戴

堀毛会長より、本年度は、日本グループ・ダイナミックス学会諸規定（名誉会員の推戴条件）における「学会活動に著しい貢献のあった者」に該当する会員として、長期に

わたり監査の任に当たってくださった篠原しのぶ先生をご推戴申し上げることとしたとの報告があった。

編集

1. 実験社会心理学研究の刊行・審査状況

堀毛編集委員長より、前大会から今大会までの実験社会心理学研究の審査状況について、下記の通り報告があった。

投稿論文総数	27編
次号(42巻2号)掲載決定論文	7編
審査進行中論文	20編
主査掲載可論文	2編
審査者審査中	9編
著者改稿中	9編
取り下げ論文	5編
掲載不可論文	2編

2. 編集方針・体制の改善について

堀毛編集委員長より、「実験社会心理学研究」編集方針・編集体制”の最終稿が提示された。

3. AJSPの刊行状況

山口常任理事より、第5巻まで順調に刊行してきたこと、第5巻についても科学研究費を獲得することができたことが報告された。しかし、科学研究費を受けたことを雑誌に明記していなかったという事務局側の不備があったため、堀毛会長より、このことに関する説明と謝罪、そして、対応の願いがあった。

4. 実験社会心理学研究既刊論文のAJSP投稿禁止の件

これまで、実験社会心理学研究に掲載された論文をAJSPに投稿して良いかどうかということについて、一般会員に周知徹底していなかったために誤解が生じた例があったので、堀毛会長より、「実験社会心理学研究に掲載された論文はAJSPへ投稿を禁止する」ということを明確に通知した。

広報

1. ぐるだいニュースの発行・ホームページの運用

廣岡常任理事より、ニュースレターは、大会直前号として“号外”を発行したとの報告があった。ホームページには、大会開催の情報についても最新情報を掲載している旨、報告があった。

大会報告

第49回大会(於：熊本大学)決算報告：篠原第49回大会委員長より別紙<資料2>の通り、決算した旨報告があった。

事業報告

1. AJSPの契約更新

山口常任理事より、AJSP第6巻以降について、Blackwell社との間で、当学会に有利な契約更新を行えたことが報告された。具体的には、当学会はこれまで配布数を上回る部数の購入を求められていたが、今後は最低600部の購入でよいこと、680部まで購入しても総額に変化はないこと、さらに部数が増えた場合でも、本来の1巻34US\$に変化はないことを明示した契約更新が行われた。

2. 三隅賞の選考報告

堀毛会長より、2002年度の三隅賞は、AJSP第4巻を対象として5段階評価の投票により、Matsumoto DとKupperbusch Cの共著“Idiocentric and allocentric differences in emotional expression, experience, and the coherence between expression and experience”(AJSP, August 2001, vol. 4, no. 2, pp.113-131所収)に授与されることになったと報告があった。今夏のマニラ大会で授与される。

なお、故三隅名誉会員のご遺族より、三隅賞へと100万円の寄付があったことが改めて公表され、堀毛会長から謝辞が述べられた。

3. 優秀論文賞の選考報告

安藤選考委員長より、選考経過の報告があった。優秀論文賞は第41巻1号に掲載された「北村英哉ムード状態が情報処理方略に及ぼす効果—ムードの誤帰属と有名さの誤帰属の2課題を用いた自動的処理と統制的処理の検討—」に授与されることになった。なお、次点であった論文についても議論の様子が報告された。

4. 第50回大会開催

アジア社会心理学会の協力によって英文論文ワークショップを開催して好評であること、50回大会を記念した展示を行っていることなどが報告された。また、プログラム作成の段階で準備委員会のミスによってプログラムから削除されてしまった高木論文については、堀毛大会委員長からの謝罪の言葉とともに、実験社会心理学研究第42巻第2号に改めて掲載することが報告された。

将来計画

1. 研究委員会の活動と規約

松井常任理事より、2001年度、および、2002年度に、日本マーケティングリサーチ協会との共催講座を開催してきたことが報告された。また、共催講座、ならびに、学会でのワークショップや院生セッションなどの研究活動を支援するために、研究委員会が設けられ、規約が整ったことが報告され、今後は、規約に則った運営がなされる旨、報告された。

堀毛会長、および、渥美常任理事から、常任理事会で話題になりながら結論に至らなかった事項（「実験社会心理学研究の改題」、「会員制度の検討」、「役員選挙規定の見直し」など）が次期の常任理事会へと引き継がれることが報告された。

【審議事項】

1. 2001年度決算案

渥美常任理事より、別紙の通り決算報告が行われた＜資料4＞。引き続き、相川監査より、会計監査および業務監査の結果について報告があった。両報告を総合して、2001年度決算は承認された。

2. 2002年度決算について

渥美常任理事より、3月下旬に、年度末の決算を正確に報告することは不可能であること、2001年度の決算が監査される際に、2002年度の1月末日までの予算執行状況についても監査を受けたが問題はなかったこと、さらに、5月頃に確定する予定の2002年度決算については、新監査に監査を受けて、次の総会で承認をえるという手続きをとること、が原案として提示され、承認された。

3. 細則改正（第24条、第32条）

堀毛会長より、別紙の通り、細則改正案が提示され、承認された＜資料3＞。

4. 事務作業等委託の移行

堀毛会長より、2003年度をかけて中西印刷に委託することとしたいとの原案が示され、承認された。

5. 2003年度予算案

堀毛会長より、予算案の趣旨が示され、渥美常任理事から主たる収入・支出項目について説明があった。審議の結果、これを了承した＜資料5＞。

6. 編集方針・編集体制の改善について

堀毛編集委員長より、“「実験社会心理学研究」編集方針・編集体制”の最終稿が提示され、これを承認した。

7. 2003年度事業計画案

堀毛会長より、引き継ぎ項目の確認があり了承した。項目としては、実験社会心理学研究の刊行、AJSPの刊行、事務作業等（事務委託、サーバー、オンラインJ）を中西印刷に委託していく具体的日程、倫理規定検討委員会については設置するかどうか、学会誌名変更、会員制度などそれぞれを検討することであった。

また、第51回大会開催（2004年春、南山大学、大会委員長：津村俊充先生）について原案が報告され、承認した。

【その他】

1. 2000年からの事業総括

堀毛会長より、資料に基づき、事業の総括があった。

2. 新会長挨拶

渥美新会長より、挨拶と指針が述べられた。

総会決議のお知らせ

会 長 渥美 公秀

50回記念大会の運営にご参画いただきました理事を始め会員の皆様に、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。さて、京都大会時に開催されました総会への出席者数は、残念ながら全正会員数の過半数には達しませんでした。したがって、規定により「仮総会」となっています。仮総会での決議は効力を発するのは、学会会則細則第11条に、「仮総会の場合には、その決議事項を全会員に通報し、その後1月以内に会員総数の過半数が文書によってこれに反対しないときは総会の決議としての効力を発するものとする。」と規定されています。遅くなりましたが、このぐらだいニュース第24号の発行をもって全会員への通報に代えさせていただきます。

実験社会心理学研究 第42巻2号掲載決定論文

< 一般論文 >

【原著論文】

- 河原利和・杉万俊夫 過疎地域における住民自治システムの創造－鳥取県智頭町「ゼロ分のイチ村おこし運動」に関する住民意識調査－
 吉田綾乃・浦光博 自己卑下呈示を通じた直接的・間接的な適応促進効果の検討
 相澤寛史 同性友人関係における投資モデルの精緻化
 樂木章子 施設で育てられた乳幼児との養子縁組を啓発する言説戦略－ある養親講座の事例研究－
 鈴木勇・菅磨志保・渥美公秀：日本における災害ボランティアの動向－阪神・淡路大震災を契機として－
 中谷内一也・大沼進：環境リスクマネジメントにおける信頼と合意形成－千歳川放水路計画についての札幌市での質問紙調査－

【展望論文】

- 青野篤子 対人距離の性差に関する研究の展望－従属仮説の観点から－

< 学会発表論文 >

- 高木邦子 関係初期における否定的対人感情の形成・修正要因の質的検討

3月20日時点での、「実験社会心理学研究」の編集状況です。最新の情報は、下記ホームページをご参照ください。

・ 投稿論文総数	27 編
・ 42巻2号掲載決定論文	7 編
・ 審査進行中論文	20 編
主査掲載可論文	2 編
審査者審査中	9 編
著者改稿中	9 編
・ 取り下げ論文	5 編
・ 掲載不可論文	2 編

42巻2号に掲載予定の論文の受理までの平均月数は15.95ヶ月、取り下げを含む初回審査平均月数は3.6ヶ月でした。2000年以前に投稿された論文のうち審査が終了していない論文は2編のみとなりました。2003年度になって3編のご投稿をいただきました。論

文数は相変わらず例年に比べ少なめです。皆様是非ご投稿をお願い申し上げます。なお、編集状況については学会ホームページ上でも公開しています。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/edit_info.html

【重要】 本年5月より、編集事務局が大阪大学大学院人間科学研究科渥美研究室に移転されました。5月以降に論文を投稿される方は下記住所宛お送りください。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2
大阪大学大学院人間科学研究科渥美研究室内
実験社会心理学研究編集事務局

研究委員会報告

研究委員会 松井 豊

1. 日本マーケティングリサーチ協会との共済講座を下記のように実施しました。準備に関わられた坂元章先生、三浦麻子先生に感謝致します。

「インターネットの心理学」 2002年10月10日

講師とテーマ

三石玲子先生 「ネットマーケティングの現状と課題」
坂元 章先生 「心理学はインターネットをどう捉えているか」
三浦麻子先生 「ネットミーティングと集団創発性」
内藤まゆみ先生 「IT時代の癒し」

2. 学会大会ワークショップ（英語の書き方ワークショップ、院生セッション、フィリピンにおける農民とNGOとの協働的实践）を支援しました。院生セッションでは、矢守克也先生にご調整を頂きました。

3. 研究委員会の規定が、理事会と総会において、承認されました。下記に全文をあげます。

【研究委員会規定】

1（設置根拠）日本グループ・ダイナミックス学会は、会則第10条4に基づき、研究委員会を設ける。

2（目的）研究委員会は、学会員の研究成果を社会に還元し、会員相互の研修を活発化するための諸活動を行う。

3（構成）研究委員会は、常任理事1名理事1名を含む会員4名で構成される。委員は常任理事会が推薦し、理事会の承認を受ける。任期は2年とする。

附則 本規定は、平成15年4月1日より実施する。

会員移動

< 2003年2月分まで >

新入会員

- - 省略 - -

所属変更

- - 省略 - -

住所変更

- - 省略 - -

退会

- - 省略 - -

事務局からのお願い

実験社会心理学研究の特集テーマ募集

事務局では、実験社会心理学研究の特集号テーマを随時募集致しております。詳細は事務局までお問い合わせください。

実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

グルダイ学会関係連絡先

投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見

大阪大学大学院人間科学研究科 渥美公秀研究室

〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学大学院人間科学研究科

電話・Fax:06-6879-8066 E-mail: atsumi@hus.osaka-u.ac.jp

学会事務局

大阪大学大学院人間科学研究科 渥美公秀研究室

〒565-0871 吹田市山田丘1-2 大阪大学大学院人間科学研究科

電話・Fax:06-6879-8066 E-mail: atsumi@hus.osaka-u.ac.jp

ニュースレター(ぐるだいニュース)の編集・記事の投稿

三重大学教育学部 廣岡秀一研究室

〒514-8507 三重県津市上浜町1515 三重大学教育学部

電話・Fax: 059-231-9329 E-mail: shuhiro@edu.mie-u.ac.jp

メールマガジン(JGDA_Flash)へのニュース記事投稿

新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報など、を募集しています。

E-mail: jgda_flash@psycho.edu.mie-u.ac.jp までお送りください。

また、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。

住所・所属変更

日本学会事務センター大阪事務所(学会センター関西 担当: 山田範子)

〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

TEL 06-6873-2301 FAX 06-6873-2300 E-mail: nyamada@bcasj.or.jp

学会ホームページ

本学会のホームページは <http://www.soc.nii.ac.jp/jgda/> です。最新の情報も過去の情報もすべてここに掲載されています。

(編集後記) ■「あと少しでお役ご免です。最後の編集となる次号は、大会直前号として2003年2月の発行を予定しています」と結んだ23号でしたが、何の因果か24号も編集をしてしまいました(-_-)。■前号が「号外」という薄い内容の発行だったので、(不)定期刊行誌としてはお久しぶりのぐるだいニュースとなってしまいました。■第24号のぐるだいニュースは、京都で開催された日本グループ・ダイナミクス学会第50回大会の報告号として編集されています。編集前は、大会時のワークショップやシンポジウムに関する記事をふんだんに掲載しようと意気込んでいたのですが、総会関連の重要記事が予想外に多く、今号に掲載する余地が残されませんでした。そこで、次25号で、「大会企画特集」と銘打ちながら、企画者、参加者によるワークショップに対する感想・コメント・議論等を展開したいと考えています。■お忙しいところ、すでにワークショップ関連の原稿をいただいた先生方には、発行が若干遅れますこと、この場をお借りして深くお詫び申し上げます(廣)。

< 資料 1 > 選挙結果

表 2 会長選挙結果

順位	当選	候補者氏名	得票数
1	当	渥美公秀	85
2	次	大淵憲一	62
3	次々	堀毛一也	15
3	次々	村田光二	15
5		大坊郁夫	14
5		山岸俊男	14
6		外山みどり	11
7		山口 勸	9
8		松井 豊	8
9		橋口捷久	3
10		廣岡秀一	2
10		鹿内啓子	2
		白票	2
		合計	242

表 6 監査選挙結果

順位	当選	候補者氏名	得票数
1		相川 充	28
2		大坊郁夫	11
3	当	杉万俊夫	8
3	当	外山みどり	8
5		大淵憲一	5
5	次	松井 豊	5
5	次	篠原しのぶ	5
6	次々	黒川正流	4
6	次々	村田光二	4
6		吉田道雄	4

注1) 次々点者までを掲載。

注2) 相川充氏は地区別理事、大坊郁夫氏は全国区理事当選のため、当選者から除外。大淵憲一氏は全国区理事、吉田道雄氏は地区別理事当選のため次々点者および次々点者から除外。

表 5 地区別理事選挙結果

北海道			東北			関東			中部		
当	鹿内啓子	3	当	飛田 操	3	当	相川 充	5	当	高井次郎	26
次	濱 保久	2		大淵憲一	2	当	安藤清志	5	次	池上知子	2
次	福野光輝	2		海野道郎	1	次	岡本浩一	5	次	吉田俊和	2
次々	今川民雄	1	次	菊池章夫	1	次々	岡 隆	4	次々	金井篤子	1
次々	今城周造	1	次	鈴木淳子	1	次々	笹尾敏明	4	次々	唐沢かおり	1
次々	木村士郎	1	次	福島 治	1	次々	下斗米淳	4	次々	坂本 剛	1
次々	高橋伸幸	1	次	堀毛一也	1				次々	内藤哲雄	1
									次々	早川昌範	1
									次々	宮本正一	1
									次々	山本都久	1
			注)大淵憲一氏は全国区理事当選のため、次点者から除外。			注)同点の相川充、安藤清志、岡本浩一3氏については、抽選により相川、安藤両氏が当選。					
近畿			中国 四国			九州			沖縄		
当	唐沢 稜	23	当	浦 光博	10	当	吉田道雄	16	当	國吉和子	6
当	遠藤由美	9	次	深田博巳	2	次	関 文恭	2	次	中村 完	1
次	北山 忍	5	次	田中共子	2	次々	朝見淑子	1			
次々	土田昭司	4	次々	青野篤子	1	次々	窪田由紀	1			
			次々	石井眞治	1	次々	黒川正流	1			
			次々	岩淵千明	1	次々	佐藤静一	1			
			次々	小川一夫	1	次々	園田直子	1			
			次々	木村 彰	1	次々	田崎敏昭	1			
			次々	木村堅一	1	次々	遠矢幸子	1			
			次々	高橋 超	1	次々	橋口捷久	1			
			次々	田中堅一郎	1	次々	原田純治	1			
			次々	戸梶亜紀彦	1	次々	安永 悟	1			
			次々	中村雅彦	1	次々	山口裕幸	1			
			次々	長谷川孝治	1						

注) 数字は各候補者の得票数。各地区、次々点者までを掲載。

表 3 全国区理事選挙結果

順位	当選	候補者氏名	全国区理事選挙得票数	会長選挙得票数	合計得票数
1	当	矢守克也*	76		76
2	当	大淵憲一	13	62	75
3	当	坂田桐子*	41		41
4	当	渡邊としえ*	40		40
5	当	南 博文	37		37
6	当	廣岡秀一	34	2	36
7	当	大橋英寿	35		35
8	当	大坊郁夫	17	14	31
9	当	林直保子*	26		26
10	次	堀毛一也	10	15	25
11		安藤清志	21		21
12		外山みどり	10	11	21
13	次々	山口 勸	7	9	16
14		竹村和久	15		15
15		松井 豊	7	8	15
16	次	杉森伸吉*	14		14
17		浦光博	14		14
18	次々	福島治*	13		13
19		潮村公弘*	12		12
20		村本由紀子*	11		11

注1) *は40歳未満の候補者。

注2) この表は上位20位までの候補者名を掲載。

注3) 40歳未満とそれ以外、別々に次点、次々点者を設けた。

注3) 安藤清志氏は地区別理事当選、外山みどり氏は監査当選のため、次々点者から除外。

表 4 指名理事

氏 名
嘉志摩佳久
山口裕幸

1) 新会長が指名した上記 2候補について選出された理事による信任投票を行い、両氏とも信任された。

表7 常任理事選挙結果

区 分	候 補 者 名	得票数	順位
全国区理事	矢守克也*	10	当選
	大淵憲一	11	当選
	坂田桐子*	3	
	渡邊としえ*	0	
	南 博文	1	
	廣岡秀一	11	当選
	大橋英寿	5	次点
	大坊郁夫	7	当選
	林直保子*	2	
地区別理事	鹿内啓子	1	
	飛田 操	0	
	相川 充	1	
	安藤清志	5	次点
	高井次郎	1	
	唐沢 稯	1	
	遠藤由美	0	
	浦 光博	2	
	吉田道雄	5	次点
	國吉和子	0	
会長指名理事	嘉志摩佳久	1	
	山口裕幸	5	次点

1)常任理事選挙は理事の互選による。

2)投票は4名連記。

3)*印は40歳未満。

表8 選出新常任理事

氏 名
廣岡秀一
大淵憲一
矢守克也*
吉田道雄

1)得票順

2)*40歳未満

3)大坊氏辞退のため、次点者4名から抽選で吉田氏を繰り上げ当選とした。

表9 指名常任理事

氏 名
大橋英寿
山口裕幸

1)新会長が指名した上記2候補について選出された常任理事による信任投票を行い、両氏とも信任された。

表10 新役員一覧

会長	渥美公秀	全国区理事	矢守克也*
常任理事 (選出)	廣岡秀一 大淵憲一 矢守克也 吉田道雄		大淵憲一 坂田桐子* 渡邊としえ* 南 博文 廣岡秀一 大橋英寿 大坊郁夫 林直保子*
常任理事 (指名)	大橋英寿 山口裕幸	地区別理事 (北海道)	鹿内啓子
		(東北)	飛田 操
		(関東)	相川 充
			安藤清志
		(中部)	高井次郎
		(近畿)	唐沢 稯
			遠藤由美
		(中四国)	浦 光博
		(九州)	吉田道雄
		(沖縄)	國吉和子
		会長指名理事	嘉志摩佳久 山口裕幸
		監査	杉万俊夫 外山みどり

*40歳未満

< 資料 2 > 日本グループ・ダイナミックス学会第49回大会決算報告書

収入

参加費	199名			1,051,000
正会員予約参加	5,000×	131名	(655,000)	
正会員当日参加	6,000×	61名	(366,000)	
非会員予約参加	6,000×	4名	(24,000)	
学生当日会員	2,000×	3名	(6,000)	
論文集	226冊 (+ プログラム当日購入)			1,092,500
予約・掲載料	5,000×	147冊	(735,000)	
写真掲載料	1,000×	1冊	(1,000)	
当日購入	5,500×	48冊	(264,000)	
学会事務センター購入	3,000×	30冊	(90,000)	
プログラム当日購入	500×	5冊	(2,500)	
懇親会	119名 (+ 2 日目弁当)			505,500
一般予約参加	4,500×	36名	(162,000)	
院生予約参加	3,000×	25名	(75,000)	
一般当日参加	5,000×	46名	(230,000)	
院生当日参加	3,000×	12名	(36,000)	
弁当 (2 日目)	500×	5名	(2,500)	
補助・協賛				346,000
学会本部			(200,000)	
広告・協賛			(146,000)	
収入合計				2,995,000

支出

印刷等				1,043,500
プログラム・論文集等			(825,290)	
通信等			(218,210)	
郵送料等				204,710
休憩室喫茶代				21,286
弁当代				166,500
懇親会費				294,210
パネリスト記念品等				42,000
アルバイト代等				465,860
大会委員会会合				54,821
事務雑費				202,113
学会本部				500,000
補助返還			(200,000)	
寄付			(300,000)	
支出合計				2,995,000

日本グループ・ダイナミックス学会第49回大会の収支を以上の通り報告いたします。

2003年3月22日

第49回大会準備委員長

篠原弘章

< 資料 3 >

細則改定報告

第24条

(旧)	(新)
正会員の会費は当分の間、年間12,000円とする。但し、大学院（修士・博士課程）在学中で定職を持たない会員の会費は、年間8,000円とする。（以下略）	正会員の会費は当分の間、年間12,000円とする。但し、大学院（修士・博士課程）在学中の会員の会費は、年間6,000円とする。（以下略）

第32条

(旧)	(新)
実験社会心理学研究を発行するために、次の役員を置く。 1.編集委員長 2.常任編集委員 3.編集委員	実験社会心理学研究を発行するために、次の役員を置く。 1.編集委員長 2.常任編集委員 3.編集委員 必要に応じて常任理事会の議決によって常任理事の中から副編集委員長をおくことができる。

< 資料 4 >

【収 入】			【支 出】		
	2001年度予算	2001年度決算		2001年度予算	2001年度決算
会 費	9,150,000	9,498,575	実験社会心理学研究	2,397,200	1,661,939
一般会費	7,440,000	7,738,200	印刷費	2,000,000	1,453,200
学生会費	400,000	452,000	送料	97,200	84,220
賛助会費	80,000	80,000	編集業務通信費	300,000	124,519
入会金	30,000	34,000	AJSP	3,071,800	4,107,970
雑誌定期購読	1,200,000	1,194,375	購入費	2,916,000	3,887,050
雑誌超過頁個人負担分	400,000	280,000	送料	145,800	220,920
分冊売上	50,000	124,176	編集業務通信費	10,000	0
広告収入	150,000	155,000	ニュースレター	459,200	318,720
雑収入	10,000	500,138	印刷費	200,000	100,800
科学研究費補助金	0	800,000	送料	259,200	217,920
小 計	9,760,000	11,357,889	優秀論文賞	110,000	100,000
			賞 金	100,000	100,000
			事務 雑費	10,000	0
			名誉会員推戴関係費	20,000	30,890
			地域別合評会補助金	30,000	0
			大会助成金	200,000	200,000
			ホームページ管理費	60,000	60,000
			事務費	1,910,000	1,919,971
			事務委託費	1,400,000	1,436,862
			通信 交通費	140,000	117,104
			事務雑費	20,000	16,005
			人件費	350,000	350,000
			理事会費	550,000	296,000
			心理学諸学会連合会費	20,000	0
			名簿作成 理事選挙積立金	700,000	700,000
			雑 費	50,000	41,826
			予備費	20,000	0
			小 計	9,598,200	9,437,316
前期繰越金	1,374,634	1,374,634	次期繰越金	1,536,434	3,295,207
合計	11,134,634	12,732,523	合 計	11,134,634	12,732,523
特別会計	名簿作成積立金	700,000			
監査報告	三隅賞基金	868,699			
	監査の結果 正確、妥当であると認める			内藤哲雄 印	
				相川 充 印	

< 資料 5 >

2003年度予算案					
【収入】			【支出】		
	単価	人数		単価	回数 人数
会 費			実験社会心理学研究		
一般会費	12,000	630	印刷費		
学生会費	6,000	80	送料	60	2 820
賛助会費	20,000	5	編集業務費		
入会金	1,000	40	AJSP		
雑誌定期購読			購入費34冊×130円/冊	4,420	1 820
雑誌超過頁個人負担分			送料	85	3 820
分冊売上			編集業務費		
広告収入			ニュースレター		
雑収入 (利息など)			印刷費	50,000	4
名簿作成積立金繰り入れ			送料	80	4 820
前期より繰り入れ			優秀論文賞		
科学研究費補助金			賞 金		
共催講座			事務 雑費		
合計			名誉会員推戴関係費		
			地域別合評会補助金		
			大会助成金		
			ホームページ管理費		
			事務費		
			事務委託費 (学会事務センター)		
			通信 交通費 (学会事務センター)		
			事務雑費 (学会事務センター)		
			人件費 (事務局)		
			理事会費		
			心理学諸学会連合会費		
			名簿作成 理事選挙費 (積み立て)		
			(仮称)研究委員会 / 新企画初動経費		
			雑費		
			予備費		
			AJSP為替変動対策		
			事務移行経費		
			科学研究費補助金関連		
			その他		
			次期繰り越し		
			合計		

- - - - - SPSS社広告 - - - - -